

ゆずの風新聞

令和4年
5・6月号

発行
馬路村農協



農協HP
はこちら

86歳

すみちゃんの バイリンガル コーナー

村特有の
バイリンガル用語が
たくさんあります。
あなたは
わかるかな？

Q くわばち

例) 暖かくなりましたね。村でも田植えの準備が始まりました。
そこでの鶴さん亀さんの会話
【鶴さん】「めくうなってきたねえ。そろそろ田んぼのくわばちを
せないかんねえ」
【亀さん】「そうじゃねえ」
さて「くわばち」とはどのような意味？ ※答えは裏面に

千葉さん
息子さんが
もってきてきた！

5月の中旬をすぎる頃。お昼は強い陽光が安田川を照らし、村のこども達は川で遊び始めます。石をめくったり、小魚を捕まえたリ川がにぎやかになるのは見ていてこちらも楽しくなります。

今はまだ少し冷やいですが、7・8月は川の温度も上がっているので、来村されたときは、足だけでも浸かってみるのもアリかもしれませんね。

村新人の初釣り。

3月にアメゴ漁が解禁され、6月には鮎漁が解禁になります。「どこで釣れた」「あそこは今年はいかん」と村のおんちゃんらの会話を聞き耳を立てる。というのも、今年は私も釣りをしてみよう、と一念発起し、アメゴと鮎を目標に初溪流釣りに挑戦することに。『ローコスト・ハイリターン』を狙い、百円ショッポで釣り竿とリールとクラーボックスを揃えて川へ。ビギナーズラック：と思いきやアクシデントの連続。苦手な川虫を針に付け、投げようとすれば、リュックや服に引っかかる。糸に癖がついていて投げることに絡まる。そして再セッティングできたかと思えば、今度はリールのハンドルが取れ、川の中へ…。安物買いの銭失いとはこのことか。急いで通販でちゃんとした竿とリールとルアーを買い、再チャレンジ。…あれ？ローコストとは？

後日、村のおんちゃんが釣ったアメゴを頂くことに。自分で釣ったアメゴを口にするのはまだ先のようにです。

たぶくん。

ある日のこと、パン屋さんの前で木の棒を持った子どもたちが遊んでおり、チャンバラでもしているのかと眺めていると、「たお君が太いが釣ったよ」とパン屋さんが一言。見てみると20センチを超える元気なアメゴがビニール袋の中で泳いでいます。

子どもでもアメゴが釣れることに驚きつつも、「木の棒に糸をくくりつけて針には川虫を付けただけよ」と、その釣りの仕掛けにも二度目の驚き。そうか、子どもたちが持っていた木の棒は釣り竿だったのか。

釣れん釣れんと大人が頭を悩ますアメゴ釣り。どうやら村で育った子どもたちは川の神様に見守られているようです。



たお君と 20cm 以上のアメゴ



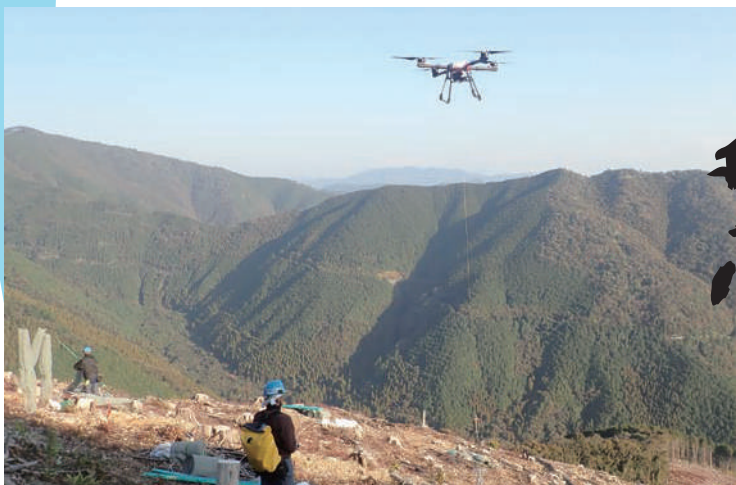
農協に勤める千葉さんの息子タツマサ君が何とこの度村へ帰ってこるとに。「馬路は地元なので、いつかは帰りたいと思ってました。長男が小学校に入るし、自分が育った地元で子育てをしたいなと…」元々帰ってくる気持ちはあったそう、長男くんの小学校入学のタイミングと奥さんの後押しもあって一家で馬路へ引っ越してきたそうです。この4月から親

おじもドローンも飛ぶ

馬路村の林業を担っている「エコアス馬路村」。エコアスでは2年ほど前から林業用ドローン「森飛」を作業に使う道具の運搬に使われています。

昔は500mの急斜面で道具の運搬をする際、行き帰りで1時間30分程かかっていたそうですが、ドローンを使うことにより5分で終わることができ、ドローンを使うと10人分の作業が出来るようになったんだとか。

村のお山の中でも最先端の風が吹いております。



村のタケノコ物語



毎年春になると、村の山々に生えるタケノコ。ありがたい山の幸のおすそわけが村内を行き来する時期、会議の中で若いしがポツリと言いました。「タケノコお客さんに送ったら、喜んでくれるかな？」そりゃあ面白いかもしれないと、その一言からスタートした、タケノコ物語。

村の中にはありふれたタケノコです。「そんなもんお客さんに送ってどうするがかね」と、村のおばちゃんには怒られながら、若いしはたちは、何本くらいとれるだろうか、いつ頃が一番えいろうか、どんな形でお客さんに届けようか、などなど形にしていき、ネット限定でゆず商品と一緒にセットを組んで、メルマガで案内をかけ、注文を受け付けよう、というところまで何とか企画が進みました。

タケノコは鮮度が命。掘ったその日に出荷しなければならず、数は10個くらいが限界やろう、とのことで、ごく一部の地域のお客さんに限定してメルマガを配信することに。配信後、「あれ？なんか配信数が多いなあ」と一人が気付く。ん？？なんとなんと、一部の地域のお客さんだけではなく、間違って全国のお客さんにメルマガを配信。そりゃあ10個じゃ足りんぞ！と大慌ての一同。数を調整し、村のおんちゃんにも助けを仰ぎ、大量のタケノコを掘り、なんとか全ての注文に対応することができたようです。村の旬のおすそわけ企画は、ドタバタの春の物語となりました。

目利きの腕も必要やね！



今まで村へ食料品などを運んでくれていた便が廃止となり、この春から自分たちで片道1時間30分をかけて市場まで仕入れに行かなければならなくなった農協のAコープ。馬路村の中でスーパーの役割を担っている重要な事業であり、無理をしても存続していかねければなりません。そんな重要な、Aコープ課長の仕入れに、ちよつと一日ついていってみました。朝6時30分に村を出て、高知市内の卸市場へ。山の中の村でも食べたいのは新鮮な魚でありますので、並んだ魚を吟味して、狙ったものを手にしていきます。鮮度や脂のノリなどはもちろんですが、重要なのは村のおばちゃん喜んでくれるかどうか。その目利きがなかなか難しく、そんじょそらの仕入れとはわけが違ってくるようで、まだまだ掴めないこともあるようです。その後、他にも必要な食料などを仕入れ、朝と呼べるうちにはまた村へと戻っていききましたが、今まで無かった業務に汗をかきながら「できることは自分からあでするしかない」という課長の背中に、村の強さを感じさせられる一日となりました。目利きの腕を上げて、おばちゃんたちに褒められる日もそう遠くはないでしょう。

初夏の花



5月に入りポツポツと枝の先についた蕾が、日に日に大きくふくらみ、中旬にもなると、なんとも言えない心地よい香りとともに、一斉に白い花を咲かせていきます。今年は花の開花が少し早いようで、花のつき具合が、この秋の収穫量を決める一つの目安のため、おんちゃんたちは急いで畑をまわり一本一本じつと見つめていきます。初夏のわずかな期間、村が花の香りで包まれます。

前組合長その後



3月に退任した、東谷前組合長。馬路村のゆずを半世紀に渡って引っ張ってきた人物で、退任の際、お客さんからも多くの惜しむ声が農協に届きました。そんな前組合長のその後は、農協職員を引き連れて、花見をしたり、地域おこしで頑張る全国の地域と交流が続くなど、まだまだ大忙しの様子、です。どうやら、村の山でまた面白いことを計画中でもあるようです。

すみちゃん 86歳
「くわばち」
＝「田んぼの畔(あぜ)の水が漏れないようにくわで土を詰めて補修すること」

馬路温泉
つるつるのお湯でゆったり。食事、宿泊もできます。
電話番号 0887-4412026
予約専用フリーダイヤル 0120-14412026
馬路温泉 HP

森を元気にする会社
エコアス馬路村
エコアスの木のかばん
http://www.ecoasu.co.jp/

編集後記
表の記事にもあるのですが、今年初めて溪流釣りに挑戦してみました。ですが運悪く今年の安田川は不漁ということで釣り人のおんちゃんらもあまり見かけません。そこで、普段人が入らない少し奥まったところはどうかと思い、川幅が広くなっているところを探すと一時間。そよ風で桜が舞い落ち、他の釣り人もおらず、川の優しいせらぎだけが響く秘密の場所を見つけてしまいました。なんて良い場所を見つけてしまったんだ私は。そして竿を振ること2時間。何の釣果も得られませんでした！ですが、不思議と満足感があり、溪流釣りには魚を釣ること以外にも自然を楽しむという事もあると実感できました。これからは自分のペースで、ゆったりと釣りを楽しみたいと思います。